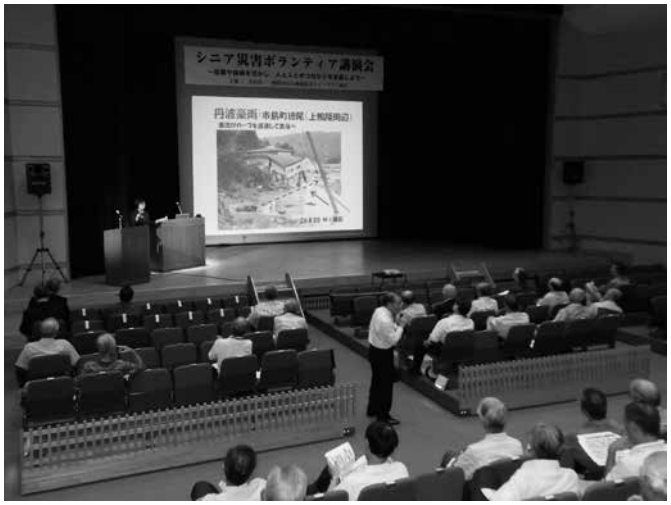
奈良県

シニア災害ボランティアシンポジウム開催報告

シニア災害ボランティア講演会

～知識や経験を生かし、人と人とのつながりを支援しよう～



平成26年9月4日（木）、奈良県社会福祉総合センター6階大ホールにおいて、シニアのみなさんの専門的な知識や豊富な人生経験を災害時の復旧・復興の力として活用する方法について学ぶことを目的に、奈良県と当協会主催による「シニア災害ボランティア講演会」が開催されました。

冒頭に主催者を代表して奈良県の長岡雅美危機管理監、当協会の今野事務局長が挨拶し、続いて東北福祉大学・大学院の小松洋吉教授による基調講演とNPO法人ひょうご地域防災サポート隊の伊藤道司会長による事例報告が行われました。

なお、講演の概要は次のとおりです。

基調講演　13：10～14：30

シニア世代のボランティア活動

東北福祉大学・大学院教授　小松 洋吉 氏

1．「結」の心

互いが良くなることに力を貸し合う地域の仕組み（生命の基盤、安心）

2．歴史の転換点を生きる

①歴史の転換点（生き方、地域のあり方、社会のあり方）

②災害は社会のレントゲン

③競争（奪い合い）から協力（分かち合い）へ

④つながり・分かち合う＝社会資本

3．防災から減災へ

地震は活動期に入り、地球温暖化は徐々に進行、風水害も増加。

・まちづくりも「利便、効率、成長」から「安心、安全」へ

・一人ひとりの備え（自助）、向こう三軒両隣の助け合い（近助）、地域での助け合い（共助）

広域ネットワーク（広助）、国・市町村の支援（公助）、海外支援（外助）が相互に機能し、災害に備えるということを日常生活、地域活動の中に災害の備えを取り入れていくと、減災につながる。

4．災害とボランティア

センター機能の充実、コーディネーター、ニーズの把握とそのシステム、受援力、ネットワーク力、専門力が大切。

小松 洋吉
東北福祉大学教授

東京大学文部教官を経て、現在、東北福祉大学・大学院教授、東北学院大学非常勤講師を務める。その他、宮城県防災教育指針作成協議会委員、宮城県共同募金副会長兼常務理事、仙台市社会福祉協議会副会長、仙台市災害時要援護者支援プラン検討会議委員長などの要職を務めている。

5．多様なボランティア活動とその心得

ボランティアの目的＝被災者の方に取って代わってすべてをやりこなすのではなく、時間の経過と共に少しずつ元の生活に戻ることができるよう支援を行うこと

活動に際しては①無理をしない、②被災者の気持ちに配慮する、③困ったときは相談する、④活動の運営について批判しない、⑤荷物はコンパクトに　等々

6．Xデーに備える

減災のための実例紹介

①災害時要援護者支援に関する取組

～サポート体制の構築～

・夫婦とも70歳以上世帯へのアンケート調査

・災害時の訪問活動

・要援護者と支援者の名簿作成

②介護施設の取組

～日頃からの備えと徹底した防災訓練～

・町内会との合同訓練

・普段からの地域交流

・トップマネジメント力とスタッフの判断力

他2例

7．優しい地域づくりを目指して

地域の質の向上のためにはシルバー力（知恵、時間、典座の心）が必要不可欠

これからの活動のための「4thLOVE」、「話し愛」、「つながり愛」、「学び愛」、「創造し愛」

以上のように「防災から減災」をキーワードに、日頃から住民同士の交流によって地域社会で減災の定着化が必要であること、また、ボランティア活動にあたり、その活動の多様化、被災者側に立ったサポートの重要性、活動の心得等々をお話しされました。

事例報告　14：40～16：00

地域における防災ボランティア

NPO法人ひょうご地域防災サポート隊

会長　伊藤 道司 氏

1．私たちの防災活動

「守れ命を！地域の防災」――自分の命は自分で守ることが重要。

そのためには災害のありよう、災害のメカニズムを今一度勉強し、町、災害、人を知り、その地域ごとの対策を考えて、備えをすることが大切。

特に、近年想定外の災害が起こるなか、行政だけに頼らず、地域の防災力を高めておく必要がある。

伊藤 道司

NPO法人ひょうご地域防災サポート隊会長

1965年大阪工業大学土木工学科卒業後、兵庫県に奉職。兵庫県土木部港湾課長、兵庫県企業庁淡路建設局長、兵庫県土木部次長、兵庫県企業庁地域整備局長を歴任。2001年4月から2004年12月まで明石市助役。2006年1月にNPO法人ひょうご地域防災サポート隊を設立し、会長を務めている。

2．多発する大災害とその対応

3・11以降の主な災害と行政の対応や被害状況の紹介

避難勧告・指示の実状と住民の避難状況について主な災害と併せて紹介

3．災害からいのちを守る

リーダーの存在やリーダーの確保、情報伝達の大切さ、地域のコミュニティーの大切さ、また特に女性視点での防災の重要性、車における被災の確率の高さなどを紹介

4．シニアと防災ボランティア

兵庫県の東日本大震災への支援について現状と体制、また兵庫県の防災ボランティアの活動内容を紹介。

5．今後のあり方を考える

阪神・淡路大震災での兵庫県の取組（防災監の設置、基金の設立等）、次なる大災害に備えて「伝える」、「備える」、「活かす」ことの重要性、また、NPO法人の現状の課題（非収益事業、シニア世代の高齢化）などを説明。

以上、災害ボランティア活動について各方面より異なった視点でお話しいただきました。

今後の防災（減災）への取組、自助の大切さなどを考えるうえで大変参考となる講演となりました。